

地域のボランティアスクール

ふれあい

横浜みどりの学校ひまわり

2020年10月号 No.43

こんな学校があってもいいかも

(既存の教育にとらわれない学校)

ひまわりは、さつきが丘小学校の元校長が開設した全員が手弁当のボランティアスクール(私塾)です。「公立学校で苦戦する子どもたちを公立学校ではできない手法で支援する」「地域の子どもは地域で育てる」「金のかからない教育の実践」などを掲げて、9年前に開設されました。

不登校問題を考える

校長 渡辺 正彦

自分が公立小学校長時代に、学校に馴染めず学校で苦戦している子ども達を目の当たりにし、多くの取組をしたにも関わらず子ども達を十分に救えなかったことへの悔恨が本校設立の原動力になっております。

来年で設立10年を迎える本校の児童・生徒の大部分が「不登校」で苦しむ子ども達です。

73歳の私の小学生のころは「不登校」ではなく「学校嫌い」と呼んでおり、私も「学校嫌い」でよく親父に叱られたものです。その後1960年頃には「登校拒否」と呼ばれ、まるで子ども達らの意思で登校を拒否するが如く呼ばれておりました。そして、現在の「不登校」と呼ばれるようになりましたが、「不登校」の子ども達の多くは「学校に行かない」のではなく「学校に行けない」のです。

文科省の2018年の調査では、不登校の子どもが小学校で44,841人、中学校で119,687人となっており、小学校の前年比増加率はなんと28%、中学生は28人に一人が不登校となっております。(2020年10月の最新の情報では、小学生53,350人、中学生127,922人) 不登校の原因は、いじめ・対人関係・学業不振・部活動不適應・学校のきまりに因するもの、などが挙げられております。

私の小学校在職のころは、文科省をはじめ各教育委員会是不登校の数を減らすのに躍起になっておりました。不登校児童・生徒への対応や保護者への対応などの研修会に参加した覚えもあります。校長時代も自分の学校の不登校の数が気になり、他校と比べたりしたものです。

そんな国の方針に変化が表れました。不登校を減らすより(減らせない)も不登校児童・生徒を認めて、彼等をより良い環境で柔軟に教育しようと方向転換をしたのです。

文科省、平成28年9月14日の「不登校児童・生徒への支援の在り方についての通知」同別記などです。また、

これを受けて令和元年10月25日の横浜市教育委員会の「横浜市における不登校児童・生徒が通う民間施設についてのガイドライン」などで、不登校児童・生徒が公立学校に通わなくてもフリースクール等に通えば在籍学校で出席扱いにする(在籍校長裁量)という新たな方針が出されました。これは、不登校に対する国の方向転換であり、もはや不登校を公立学校だけで対応することの限界をしめたものだと思います。

不登校児童・生徒の中にハイリーセンシティブチャイルド(HSC)、自閉症スペクトラム(ASD)、パニック障害、広場恐怖症など個性や発達障がい、心の悩みなどに起因する者が多く含まれております。「不登校児童・生徒」とは「学校に行けない子ども達」です。多様な才能を有しているこの子ども達を社会が正しく理解して支援する必要があります。特に公立学校では不登校の原因となっている子どもの個性や発達障がいについて理解を早急に深めなければなりません。かつて、公立学校に勤務していた私はそれを強く感じます。

Try コロナ!! Chance コロナ!! コロナ禍でもひまわりでの活動が安心・安全に行えるよう

様々な支援の手が差し伸べられており、温かいご支援に感謝し有効に活用させていただきます。

◇NPO 向け助成金 横浜市市民公益活動緊急支援助成金 30 万円：オンライン学習などのためのインターネット環境整備として WIFI の導入を検討中

◇かながわ生き生き市民基金：手洗い場の増設

◇青葉台南商店会 新型コロナウイルス感染症対応商店街等活動支援事業 一時金 10 万円：現在、活用方法を検討中

ボランティア研修会 毎月第2・第4土曜日に開催!

第一回 10月10日(土)

テーマ：人一倍敏感で繊細な子どもの理解と支援の仕方を考える

ーひまわりにおける HSC (ハイリーセンシティブチャイルド) の存在ー

◇HSC の特徴、HSC と発達障がいとの関係について学び、ひまわりにおける HSC とその支援について現状を把握し、意見交換を行いました。

ご興味がおありの方は
渡辺までお問合せ下さい。

第二回 10月24日(土)

テーマ：子どもの気持ちに寄り添うって難しい

◇心理士の千賀先生を中心に、寄り添うとは?親が言いがちな 12 の型、などについて学び、親として子どもを思うがための一言が必ずしも子どもの気持ちに寄り添っていないという気付きもありました。

※次回は 11 月 14 日 (土) 9 時~10 時半に開催予定です。テーマは検討中です。

Volunteers Vol. 2

ひまわりでは、様々な分野でご活躍中の専門職の先生方が支援をしてくださっています。今回は、土曜日に勤務されている小林武夫李先生をご紹介します。

もともとスポーツやスポーツ心理学に関連する仕事をしていたのですが、20 年ほど前にボランティア感覚でしたスクール・カウンセラーの仕事で発達障害の高校生に出会い、この 15 年は自閉症スペクトラム支援士という資格で発達障害の方の就労支援の仕事をしています。相談者はほとんどが社会に出ていろいろ苦労した末に発達障害の診断を受けた方やそのご家族です。中には親子関係がよくなかったり、二次障害に苦しんでいる方もいます。もし子供の時から適切な支援ができていたらと考えたことが、ひまわりの活動に参加するきっかけでした。

ご家族にとっては、お子さんの「自立」が大きな願いだと思います。しかし、発達障害の方の「自立」、ましてや「幸せ」はかなり多様なようです。家族や他人に相談できることが「自立」であったりもするようです。学校生活よりも社会人としての生活は選択肢が増えます。期間も長い。だからこそ、その方の特性にあった選択ができるように子どもの時から準備することが大切だと感じます。選択肢は一つではなく、いくつか持てるともっといいかもしれません。理想はご本人が一生懸命になれることを伸ばしてあげることだと思いますが、保険として、通院して診断をしてもらったり、ご本人にあった働き方を探す必要があるかもしれません。会社や職種もいろいろです。よい環境がその人の能力を発揮させるのだと思います。

なるべく親子が今を楽しみ、いろいろなことを一緒に経験してほしいと感じます。それが不確実な将来に対応するための流動性を高めることになると思います。ひまわりのボランティアをしていて、子供たちと接したり、ご家族と話をする、多くの発見があります。学校生活や子供たちの人間関係も大きく変化していることを知り、驚いています。仕事の関係で土曜日しか参加できませんが、最近は英語の勉強を手伝ったり、「鬼滅の刃」や囲碁を教えてもらったりしています。皆さんと活動することで、新しい時代や生き方を学べたら幸いです。

日々の活動の様子



フードバンクさんよりいただいた食材や
ひまわりで収穫した野菜などで、
カフェ風お昼ご飯♪



以前のように、ゲーム以外の活動も充実
してきました。囲碁、ピアノ、ヨガ教室、
鉄道模型、英語、フィールドでのマラソ
ンなど、多彩な先生方より支援を受けて
います。



オンライン リフレッシュタイム也大盛況です♪

小学校高学年のお子さんが中心になって、ゲームのルールを解析
して参加者を引っ張っていく姿が見られます。子ども達それぞれ
が得意な分野で力を発揮し、知恵を出し合い、主体的に活動して
います。

◇火曜・・・ボードゲーム

◇木曜・・・マインクラフト（realms）レルムズ
というマイクラ公式サーバーにワールドを作り、
子供たちが自由に出入りできるようになりました。





リクガメのために、小中学生の男の子達が近隣のスーパーにキャベツの外葉をいただきに行ってくれます。



下山理事長よりいただいた稲も大きく成長し稲穂がしなって下を向いてきたので、子ども達とボランティアさんで稲刈りをしました。



★ひまわりは、7月1日より感染症対策を行い、変則的ではありますが開校致しております。ご質問・見学ご希望の方は、渡辺（090-9201-3992）までお気軽にお問い合わせください。最新情報はホームページ <http://himawari-school.jp/>、と Facebook にてアップデートしています。